

グアム家族旅行 2012

右城 猛

グアム Guam の概要

孫の祐希が1歳半になった今年は、夏期休暇を利用して家族揃ってグアムに行ってきた。グアムは、2000年に会社の慰安旅行で行って以来12年ぶりである。次女の怜佳は昨年に続いて2度目。

グアムは海底火山によって造られたマリアナ諸島の南西端に位置する最大の島。

島の北部は珊瑚礁に囲まれた石灰質の平坦な台地で、南部は火山の丘陵地帯。最も高い山は標高406mのラムラム山。

原住民は、東南アジア系民族チャモロ人。1521年にポルトガルのマゼランがヨーロッパ人として初めてグアム島に到達。1565年にスペインの植民地となる。キリスト教宣教師がチャモロ人の伝統的な習慣や文化を厳しく禁止したため、1669年にスペイン・チャモロ戦争が起き、10万人いたチャモロ人が5000人に激減した。

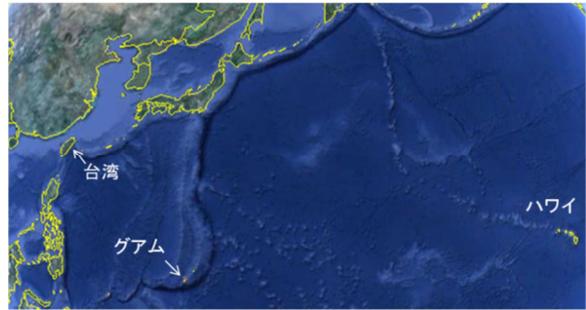
1898年、米西戦争でアメリカがスペインに勝利し、パリ条約によりグアム島はフィリピン、プエルトリコとともにアメリカ合衆国に割譲された。

1941年12月に太平洋戦争が勃発。日本海軍は真珠湾攻撃の5時間後にグアムへの航空攻撃を開始し、日本が占領したが、1944年8月に米国に奪還された。

1950年、「アメリカ合衆国自治的・未編入領域」となり、現在まで米軍の太平洋戦略上、重要な基地のひとつとしてグアム島は活用され、近年は日本からの観光客を中心とした観光地、リゾート地として発展を遂げている。

グアム島の面積は549km²で、人口は16万人。面積、人口とも淡路島と同じ規模

である。時差は1時間。貨幣はアメリカドル。



高知龍馬空港から出発 9月7日(金)

2012年9月7日(金)、高知龍馬空港19時5分発のJALで羽田空港へ。成田国際空港の敷地内にあるホテル「成田エアポートレストハウス」に宿泊。

9月8日(土)7時15分に、成田国際空港第1ターミナルビル北ウイング4階で長女・和恵の家族と合流し、9時25分発のデルタ航空DL290便でグアムに向けて出発。



元気に成田空港に現れた祐希。1歳5ヶ月



出国手続きを済ませて搭乗口へ



搭乗口の近くのカフェで朝食

グアム到着



グアム国際空港に到着。簡単な入国審査を済ませてバス乗り場へ。時間は13時30分。現地時間の14時30分。



ホテルはアウトリガー・グアム・リゾート。正面には、道路を挟んで免税店がある。南隣のビルには、アンダーウォーターワールドがある。ホテルの裏はタモン湾。周囲に土産店や飲食店が密集したタモン中心街。グアムで最も便利な一等地である。

ホテルを決定したのは和恵。ホテルニッコーグアムとどちらにしようか迷った末にロケーションのよいアウトリガー・リゾートに決定。この選択は正解であった。



ホテルに着くと、直ぐに水着に着替えてタモンビーチに繰り出す。



タモンビーチの海は真っ青で透き通っている。とてもきれい。祐希は初めての海水浴に大はしゃぎ。



背後の白い建物は、ホテルニッコーグアム



プールの滝に打たれる。気持ちがいい。



グアム島は珊瑚礁でできている。タモンビーチの砂は、白く砂の粒子が小さい。素足で歩いても痛くない。波打ち際は砂が締まっている。足が砂の中にめり込むことがない。足を取られないのでよちよち歩きの祐希にとっては最高の場所。

珊瑚礁の海は、遠浅なので安全。安心して海水浴ができる。ただ、真っ黒いナマコがたくさんいたのには驚いた。

初日と3日目は海水がきれいであったが、なぜか2日目は真っ黒な海草で汚れていた。



ホテルのプールで家族と水遊びを楽しむ

グアム二日目 9月9日(日)



いつもの時間に目覚める。腕時計を見ると5時。現地時間は6時。

家内を誘ってタモンビーチをジョギングする。波打ち際は、砂が締まって固いのでとても走りやすい。西表島の三原から由布島に水牛車で渡ったときのことを思い出した。砂が締まっていて水牛車が通っても轍ができなかった。どちらも珊瑚礁でできている。砂の性質が似ている。



家内は、朝から海に浸かって一泳ぎ。



コンチャスニーカーガム島内観光に出発。その前にホテルの裏庭で記念撮影。



マリンパーク海中展望塔



最初の観光地は、アデラック地区にある『ガバナーズ・オフィス：グアム政庁ミュージアム』



マリンパーク海中展望塔「フィッシュ・アイ」。日本の造船技術によって建造。



ラッテストーンを形取った展望台。アガニア湾とタモン湾を望むことができる。



窓の外にはたくさんの熱帯魚が泳いでいた。



後方はアガニア湾とタモン湾。



グアム・ハガニア地区のハガニア大聖堂



ハガッニャ地区にあるスペイン広場



スペイン広場の大砲



到着する前にスコールがあった模様。水溜まりを見つけると興奮する祐希。



ローマ法王像

スペイン広場には、スペイン統治時代の総督邸テラスの一部やチョコレート・ハウス、アルマセンのアーチやキオスコなどの観光名所がある。



最後の観光地は恋人岬。タモン湾の北の端にある海拔 122mの岬で、グアムで最も有名な景勝地。



二層作りの展望台からは、タモン湾からイパオ岬にかけての美しい景色を観ることができる。眼下には遠浅の透き通ったビーチが広がっている。



恋人岬の名物は、椰子の実のジュース。5ドル。ジュースを飲んだ後は、中の白い実を刺身にしてくれる。これをわさび醤油で食べると、あっさりしてとても美味しい。



椰子の実の刺身をホークで食べる



恋人岬にある幸せの銀の鐘を鳴らす。



ホテルニッコグアムのビーチで見るサンセットはとても美しい。



午後は再び祐希を連れて海水浴。



ポリネシアダンスを観ながらホテルニッコグアムのサンセットバーベキュー。



牛肉、鶏肉、魚、海老を焼いて食べる。
量が多いので食べきれない。



みんなでポリネシアダンスを踊る。



最後に記念撮影

グアム3日目 9月10日(月)



早朝の散歩とジョギング



背後の建物はヒルトン・リゾート・グアム



ヒルトン・リゾート・グアムの手前にあるガバナージョセフフローレスメモリアルパーク。キャンプ場になっている。

モニュメントは、ラッテ・ストーン(Latte stone)。グアム、サイパンなどマリアナ諸島に見られるサンゴ石でできた石柱。古代チャモロ文化の遺跡である。



背後の建物は、ホテルニッコーグアム。
岬の先端は恋人岬。



巨大なエイ



巨大なウツボ



ウミガメに乗って大喜び

アウトリガー・リゾートの南隣の建物の中にあるアンダーウォーターワールド。

2000 匹以上の海洋生物を観察できる水族館。サメやエイ、巨大ハタ、そしてウミガメなどの海洋生物を身近な距離で観察できるように、アクリル製トンネル式水槽構造になっている。トンネル水槽は全長約100mで、約300万リッターの海水が使用されている。



グアムの街中を走る赤いシャトルバス



シャトルバスに乗って、グアムプレミアアウトレットに行く。冷房はない。走行中は風が入って涼しいが、止まると熱気で熱くてたまらない。



アウトレットの入り口



買い物かごが付いたカートに乗って大喜び。

和恵と怜佳の二人は、北回りのシャトルバスに乗ってマイクロネシアモールグアムへショッピングに行くが、私たち4人は、南回りのシャトルバスでホテルに帰り、祐希にグアム最後となる海水浴をさせる。



ホテルに帰って、三度目の海水浴。



アウトリガーリゾートの建物とプール



3日目の夜は、シーフードバイキングを食べながら、フィッシュアイ・ポリネシアディナーショーを楽しむ。



ポリネシアンディナーショー



最後に踊り子が各テーブルを回って観客全員と握手。

グアムは、若い女性連れ、幼時を連れたカップル、家族連れの日本人が多かった。中国人や韓国人がほとんどいないのは意外であった。

グアムから高知へ 9月11日(火)

8時ホテルのフロントに集合し、JTBのバスでグアム国際空港へ。空港は15分くらいの距離。

空港ターミナルで麻薬犬を二匹見た。手荷物検査では、履いていた靴、ベルトを外し、両手を頭の上に挙げた状態でレントゲン撮られた。

祐希のお茶を入れた水筒が検査で引っかかった。中のお茶を棄てればすむと思ったが、係官はリトマス紙で水質検査をしてから返してくれた。検査中、全員に動くなと言う指示が出された。

入国審査に比べて出国審査は簡単なはずであるが、異常に厳しかった。麻薬捜査をしていたようである。

グアム10時25分発のDL0097便で成田国際空港へ。到着は日本時間の12時30分。

リムジンバスで羽田国際空港に移動し、19時5分のJALで河内龍馬空港へ。



9月8日15時38分撮影



9月11日7時33分撮影
ホテルの窓から眺めたタモン湾の風景

【2012年9月14日記】